

平成 29 年 11 月 29 日川越市議会第 9 回定例会

—独善…無責任…非情…卑劣—

議会で浮かび上がった川合市長の非人間性

川合善明なる人物は、川越市を託す市長の資格なし

川合善明川越市長が台風通過の情報を無視した行為。台風 21 号が川越市内各所にその爪痕を残し、ことに寺尾地区に多大なる災害を与えて去った後も「大した被害とは感じていなかった」。いわゆる台風被害に対して川合市長がいかに無関心であったことが、市議らの質疑に対する川合市長の答弁によって明らかとなった。川合善明という人物は、市長にあらざる無責任かつ非情な人間であることが立証されたのである。

川合市長への鋭い追及に非情な答弁。川合市長に人格の欠落を見た。

先に本紙は、下記の台風被害に関する質疑・答弁よりピックアップしたものを発表した。下記は議会開催日（11月29日）の台風被害に関する市政報告に対する質疑・答弁、12月8日から13日の一般質問の寺尾地区に向けた質疑・答弁を発表する。

今野市議による「江川都市下水路の樋門が閉じたことが、何故、災害対応部長会議へ報告が上がらなかったか」の質疑。近藤市議による「江川都市下水路の樋門が閉じた経緯とその対応について」の質疑。当該問題は寺尾地区の重要な問題点であるので稿を改めたい。

今野英子市議

質疑

24日の夕方、インターネット上で寺尾地区の甚大な被害を知ったという記者発表に関しての事実確認を。

市長答弁

24日の午後と言った方が正確かも知れない。(記者団を前にした発言を変える)

質疑

市長は23日早朝6時、寺尾地区においてボートでの救助要請の報告を受けているが、市庁舎へ登庁しなかったことについて。

市長答弁

臨時議会での答弁同様、電話での対応が可能であり車で5分の自宅にいるため不適切ではない。

質疑

25日の被災地区への視察をいつ決めたのか。

市長答弁

25日の朝、決めた。

質疑

なぜ江川都市下水路の樋門が閉められたことが、災害対応部長会議に伝わっていなかったのか。担当部署はいつ知ったのか。

建設部長答弁

水門についての報告は、3時から5時の間、その他のポンプ・水門の情報とともに報告があった。また同時に、ポンプの運用情報について本部に報告しているものとして運用していたので、水門についても報告が出ているものと考えていた。

その時点、多くの情報が錯綜している中で、その重要性や状況について適正に水門を閉めることによって市街地側に逆流を防ぐため、適正に運用されていると認識していたため報告に至らなかったと考えている。

近藤芳宏市議

質疑

10月22日21時には警戒態勢第1配備が発令されており、21時30分には現地調査班が出動となっている。気象庁からは22時38分、洪水警報が発令されている。

その内容と対応について。

危機管理監答弁

洪水警報の発令前より警戒態勢第1配備で警戒に当たっていたため、引き続き各河川の水位や市内各地の状況を監視し対応していた。

質疑

江川都市下水路の樋門が閉まった時に、災害対応部長への報告がなかったのか。

危機管理監答弁

樋門を閉鎖時点で災害対応部長会議へ報告されるべき情報であったと考えている。報告があれば適切な対応ができたと考えている。

建設部長答弁

ポンプや樋管が適正に運用されているものと考えており、樋門が閉鎖したことの連絡について、その重要性と運用が適正に行われていたとの認識から災害対応部長会議へ報告が伝わらなかったのではないかと認識している。

質疑

江川都市下水路の樋門が閉じたことにより、内水への対応が必要であると考えすることは、ごく自然のことである。江川都市下水路の樋門が閉じた経緯と対応について…。

建設部長答弁

新河岸川の水位が上昇したため、市街地に河川の水が逆流しないように樋門が午前1時15分に閉鎖した。樋門は河川の水が逆流しないように運用されているものと考えていたので、閉鎖後、職員が現地で新河岸川の水位が市街地側の水位より高いことを確認し、適切に運用しているものと考えていた。その後、新河岸川の水位が低下してきたため、10時36分に第1門を開け、10時50分に第2門を開けた。

質疑

今回の市政報告書には被害の総額が掲載されていないが、被害の総額を算出する義務はあるのか。

危機管理監答弁

被害総額を市で算出する義務はないが、被害の全容を把握する必要があると考えている。

小林薫市議

質疑

24日午後、消防議会の議長を務める私に消防局長より寺尾地区の救助等の報告を受ける。災害対応部長会議での議事を市長へ全て報告していたのか。

危機管理監答弁

各会議終了後、秘書室長が市長へ報告している。

質疑

市長は23日の午前、何をしていたのか。

市長答弁

23日午前6時の災害対応部長会議での報告を受けた後、8時より11時30分頃まで仮眠を自宅でとっていた。その後、登庁した。

質疑

22日神山佐市事務所で当選の万歳三唱は不適切だとは思わないのか。

市長答弁

臨時会での答弁同様、22日神山佐市事務所で当選の万歳三唱は不適切だとは思わない。

※この市長答弁に対し「こんな市長に川越市民は命や財産を預けることはできない。また最近、職員が報告しても市長は「聞いていない」と言うので職員の中では「気を付けよう」という話が出ている。臨時会での市長答弁で思ったことだが、今すぐに市長を変えた方がいい」と小林市議は議会の市議諸氏に向けて発言。

質疑

被災者への義援金はおよそ 1300 万円、市長は退職金として 2300 万円が入ったのだから、被災者へ寄付したらどうか、また市長給与を返上し無償で被災者のために奉仕しては。

市長答弁

退職金等、無償奉仕については、全くその考えはない。

片野広隆市議

質疑

寺尾地区の甚大被害を知ったのは 24 日夕方と新聞報道され、今議会で 24 日の午後と修正した。記者会見で発言したことを議場で訂正や内容を変えるが続いている。公の立場で議会や記者会見での発言の重要性や信頼性をどのように考えているか。

市長答弁

公の立場での発言は重要で慎重でなければならないと考えている。

質疑

24 日午後、寺尾地区の甚大被害を確認しておきながら、現地視察を 25 日午前に決めたということであるが、なぜすぐに現地へ向かわなかったのか。

市長答弁

24 日、要望活動で県庁並びに国土交通省へ出向していた「その移動の車の中でインターネットを見た」。要望活動が終わったのが午後 5 時近くで、そのまま現地へと行けばよかったが、その時点の判断ではもう既に排水も終わっていることであるから直ぐに行かなくてもいいであろうという判断をした。

質疑

23 日早朝、市長には寺尾地区の住民を救助中・詳細を調査中と報告があった。また新聞報道では、100 世帯ほどの浸水・住民をボートで救出などの報告は受けていたとしつつ、水が出やすい場所だったので、これまでと同様大規模ではないだろうと思ったと報道されている。

100 世帯以上に浸水被害がでていけば大規模災害と考えるのが常識的だが、市長は報告を受けた段階では、これまでと同様、大規模ではないだろうと思ひ込む判断を行っている。市長の中で大規模と思われる被災状況は、どれくらいの被害で大規模となるのか。

市長答弁

何とも申し上げようがない。少なくとも今回の報告を受けた時点では、この地域で起こりうる被災から、これほどかけ離れているとは受け止めなかった。

※市長答弁を受け片野市議は「市長に就任して9年間で100世帯の浸水被害・救助ボートの出動等は、なかったのではないかと判断すべき基準を持たないまま、大規模災害なのかどうか判断できない市長に、行政や危機管理を任せて大丈夫なのかと思う」と議会の市議諸氏に向けて発言。

質疑

川越市の連絡や報告が機能不全に陥っているとしか考えられない。そのような体制を作ってきた市長の責任はどのように考えているのか。

市長答弁

課題・問題点をしっかり検証し今後このようなことがないようにきちんとした体制をとっていくことが、私の責任の取り方であると考えている。

※「市長の任期はあと3年、9年掛けてできなかった体制を3年でできるのか。任命権者である市長が、このような体制を作り出してしまったことをしっかりと認識して頂きたい」と議会の市議諸氏に向けて発言。

質疑

寺尾地区にこれだけの被害を出している。寺尾小学校での第一回説明会において市長は「災害発生後の対応等に遅れをとり、御迷惑をおかけしたことを心からお詫びします」と川越市の不手際に対して謝罪を行っている。これは一定程度、川越市にも責任があることを考えての市長発言である。市長が一定程度の責任を取るのが筋ではないか。

市長答弁

責任の取り方は今後、検討していく。

—台風 21 号で非人間性が剥き出しになった川合市長—

- 川合よしあき市長による被災者に向けた心なき対応と発言
- この人物に川越市を預けられない !!
- 公人たる市長が記者団を前に詭弁を弄し…議会でもまた…

台風通過の予兆があった時点、市長は台風に備え市の幹部を督励し万端の準備を整え「市民の安全」を確保する絶対義務が有る。

台風通過当日の 10 月 22 日、川合市長は市政の最高責任者としての市民を守るべき義務を放棄した。当日、川合市長は登庁もせず私的所用の後、その日の夜、中野英幸県議会議員・自民党市議らと当選した神山佐市衆議院議員の選挙事務所で当選祝賀の万歳を三唱した。

先の衆議院議員選挙に出馬すると宣言し、それを取り止めて世間の失笑を買った中野英幸県議（自民党所属）という政治理念を欠いた中途半端な男を担いだ連中に、万歳をやられた神山佐市衆議院議員の胸中は複雑な思いがあったであろう。

一時は同じ選挙区で自分の足をすくうことを画策した連中に、当選万歳の祝賀など受けたくはなかったろう。その連中の一人川合市長が神山選挙事務所を出た後、市役所へ足を運ばず自宅へ戻り、翌 23 日なんと仮眠を理由に昼の時刻に市役所へ入ったのだ。

22 日より 23 日の午前中、主な市庁舎は市長の指示なきまま台風に対応する一応の体制を整えたものの、他市に後れを取った災害対策であった。それでも市の幹部や職員の大半は一睡もせず夜を徹して緊急情報に対応した。それにも拘わらず川合市長は、11 月 1 日の記者会見の場において「職員からの正確な報告はなく、寺尾地区の被害が甚大であることは 24 日の夕方ネットを見るまで知らなかった」などと宜（のたま）う無責任さだ。この身勝手な男による市の職員の立場を潰す保身の態度に、市の最高責任者たるの自覚の欠落を見たのだ。

仮に市の幹部職員からの報告がなかったとしても、部下の過ちは己の指導至らぬものとして部下の非を庇い、統括者である己が全てに渡る責任を背負うとする強い責任感を持ち、且つ全市民の安寧を諮る市政最高責任者たるの強固な意思を以て、職員を時には温かく包み…時には厳しく指導…徳育することによって、職員は挙げて総括者たる市長と共に市政発展のために懸命に意を注ぐのだ。

川合市長の己の怠慢を部下の責任に転嫁する卑劣な統括者には、職務に携わる人心は離れ、いか程ヒステリックに声を荒げても庁内の規律にゆるみが生じるのは当然と言えよう。

ひたすら責任回避に走る川合市長は、統括者の器なき心の奥行の狭い人物だった。

台風による被害報告を深夜より早朝にかけて「災害対応部長会議」より、自宅の市長に「人的被害…住宅被害…道路被害の件数及び場所…」についての報告を入れているにも拘わらず、11月1日の記者会見において記者団を前に「寺尾地区の甚大被害は10月24日、夕方ネットで知った」など市の役職の立場にある者らが、市長に対する被害報告を怠ったが如く報道陣を前に虚偽の発言をしている。

記者会見の前々日<10月30日(月)>「平成29年第8回急施臨時会」での明ヶ戸市議の「10月22日15時から23日(午前)10時まで、災害対策をどちらで行っていたのか」の質疑に対して「主に自宅におり、市(災害対応部長会議)からの報告を逐一受けていた」と答弁している。報告を逐一受けていた内容は、市の幹部職員より「100世帯ほどの浸水」「住民をボートで救出」などの報告は受けたが「水が出やすい場所だったので、これまでと同様、大規模ではないと思った」これが、川合市長による被災者の心を逆撫でした市の最高責任者の口から出た非情な言葉だった。当被災は11月27日時点の調査で、市内全域で482世帯。寺尾地区内では418世帯に拡大していたのだ。

川合市長在職9年、その年月の中に寺尾地区において100世帯が浸水し、住民をボートで救済するなどの大災害があったのか。報告時の「100世帯の浸水」「住民をボートで救出」この大災害に対して川合市長は「寺尾地区は水が出やすい場所だったので、これまでと同様、大規模ではないと思った」とケロリと言い抜けたのだ。川合市長にとって「100世帯の浸水」「ボートで住民を救済」などは大災害ではないのだ。

川合市長は、幹部職員によるこれらの報告を重大な被害情報として取り上げなかったということになる。これらの情報を受けた時点、即座に現地へ飛ぶのが市長の当然の任務ではなかったか。己の非を部下に被せ、己は被災現場に走らなかった言い訳のために詭弁を弄し、報道陣や議会を欺いた卑劣極まる男であったのだ。

「寺尾地区の甚大被害を知ったのは24日、夕方ネットで知った」この詭弁、川合市長は保身のために報道陣を軽々に扱ったのだ。更に川合市長の虚偽の発言は続く、平成29年11月29日の定例会の市政報告における今野英子市議の質疑で「24日の夕方、インターネットで寺尾地区の甚大な被害を知った」という記者発表に関しての事実確認に対し、川合市長は「24日の午後と言った方が正確かも知れない」などと反省なく弁じ立てたのである。既に己が自宅において、市幹部からの被害の報告を受けていることを議会で述べているにも拘わらず、同議会で詭弁を平然と吐くのだ。

■ 虚偽を弄して止まぬ川合市長を議会は追放せよ!!

報道陣を前に「寺尾地区の甚大被害を24日の夕方にネットで知った」。議会においては「24日の午後に車中でネットを見た」など詭弁に詭弁を重ね、己の非を改めぬ自省なき姿

勢。以上の如く、川合市長が議会と報道機関に対し発言を違（たが）えた行為は、いかに川合市長が両機関の存在を軽視しているかを立証するものであった。

川合市長の公の機関に対する詭弁は、中核市の最高責任者たる市長が、市民の安全を守護する絶対義務を放置したことの失態を隠蔽し、己の立場を保つ為の保身の行為であった。

こうした川合市長の独善的姿勢は、市民を代表する公の機関を冒瀆する許し難き行為である。然様な者を中核市の最高責任者として据え置くことは、市の発展を阻害する益なきことであり、川越市の恥である。市民を代表する川越市議会は即刻この者を市長の座より追放し、川越市政の正常化を促進することが議会の市民に対する義務であろう。

■ 川合市長の「不適切ではない」…

被災者の心を傷つける非情な発言

無責任極まるこの人物は議会における市議の質疑に対し、己の所行を「不適切ではない」と市の最高責任者にあらざる答弁をし、些かも恥としない人物なのだ。

10月30日の急施臨時会において川口知子市議より「自宅待機の状態は適切であったのか」の質疑に対し、川合市長は「不適切ではない」と答弁。その後、通告外で小林薫市議が重ねて「自宅待機の状態は適切では、ないのではないのか」との質疑に川合市長は改めて「不適切ではない」と答弁している。

11月29日の平成29年第9回定例会(12月定例会)市政報告での今野英子市議が「10月30日の臨時議会での答弁内容について、考えは変わったのか」との質疑に対しても、市長は「現在でも30日の臨時議会での答弁内容の通りと考えている」と答弁し、自分の行動は「不適切ではない」と反駁している。その後、小林市議の質疑の「台風が近づいている中で、選挙事務所で万歳をしていることは不適切とは思わないのか」との質疑に対しても、川合市長は「不適切であったとは思わない」と答弁している。

川口市議／今野市議／小林市議より、自宅で市から甚大な被害の報告を受けていながら何で市庁舎へ登庁しなかったのか、また神山佐市選挙事務所での万歳三唱をしていたことを追及された川合市長の答弁は「不適切ではない」と、己の不在により市による災害対応に支障を来した件に対し己の非を正当化する発言で逃げたのである。

台風の予兆も意に介さず…市の幹部に指示も出さず…大事たる当日に登庁もせず…よそ事のように「我れ関せず」と自宅へ帰り、翌日は「仮眠していた」と昼に登庁に対する市議らの市長に向けた不信の声に「不適切ではない」と我を張り通す。この市政の最高責任者たる者の被災者に向けた姿勢は、「悪ガキのふて腐れた態度」と同一に見えるのだ。

「不適切ではない」…この川合市長の発言は、被災者にとって何と非情な言葉であったのか。

■ 小林市議の質疑で “さらけでた、川合市長の非情な性格

小林市議による質疑「…市長給与を返上し無償で被災者のために奉仕しては」に対し、川合市長の答弁は「…無償奉仕については、全くその考えはない」であった。

川合市長は台風 21 号による寺尾地区の被災者に向けた姿勢は全てに渡り後ろ向きな対応で、一口に言えば非情と表現すれば、川合市長の姿勢に一番つり合う言葉だ。

広辞苑では、①「非情」：喜怒哀楽の情がないこと。また人間味や思いやりのないこと。「非情な仕打ち」②〔仏〕感情をもたないもの。木石（ぼくせき）の類。無情≠有情 とある。

川合市長には、正にドンピシャリと当てはまる言辞ではないか。

彼の議会におけるこれまでの発言、そして行動を見ていくと、これが被災者に対する川越市政最高責任者としての対応なのかと憤怒した市民は数多い。小林市議の質疑に答えた川合市長の「退職金等、無償奉仕については、全くその考えはない」。その冷血とも言うべき無慈悲な言葉に替える被災者の心を癒す言葉は無かったのか。「血も涙もない」とはこのことを言う。

■ 片野市議の質疑で引きずり出された

「寺尾地区台風被害に向けた川合市長失態の数々」

■ こんな男が川越市のリーダーとは……

片野市議は冷徹な質疑で川合市長を問い詰めていった。

本紙は前回発表した記事を訂正したが、川合市長は寺尾地区の甚大な被害を掌握していながら台風の去った翌日の 10 月 24 日、被災地区に足も向けず埼玉県庁近くの別所沼会館と県内に出先機関を置く国土交通省へ、台風災害の請願とは全く別な用件で出向いていたのだ。

台風の被害に泣く寺尾地区住民の悲劇をよそ目に…。

本紙は 24 日の日、川合市長と中野英幸県議が県と国交省へ台風被害救済の要請に出向いたとの誤信を公表した後に事実を知った時点、怒りを通り越し唾然と天を仰いだ。

川合市長と中野県議が密談し、神山佐市衆議院議員と公明党県議会議員を差し置き山口泰明議員に省庁への仲介を依頼したのだ。人の良い山口議員は、関係者らへの根回しは済んでいるものと即座に両名の依頼に基づいて手配を済ませた。

11 月 9 日、その事実を知らぬ神山代議士は川合善明川越市長と高畑博ふじみ野市長を伴い、国交省と財務省へ要請に出向いたのである。只のお飾りに使われた神山代議士は、川合・中野両氏に “コケ、にされたのだ” という噂が流れている。

中野英幸県議の衆議院議員選挙出馬に公明党の協力を懇請しながら、川合・中野両名は国への大事な要請に際し、福永県議を無視したのだ。国交省の石井啓一大臣と縁深い福永信之県議（公明党）に声を掛けなかった。福永県議は、市民のために働く人物であったのに…。

川合市長と中野県議の仲は良好と言われている。中野県議は中野清元衆議院議員の子息で、全て親の指示のみで動く県議と失笑されている。

中野英幸県議は現在、政務活動費の不正使用容疑で本紙は公開質問書を送付したが、本人ではなく「中野英幸事務所」名義の有耶無耶（うやむや）の回答でお茶を濁す積りのようだが…埼玉県のオンブズマンの方々の自民党県議に向けた政務活動費に関する調査は、進展しているようだ。間もなく蓋が開く。

■ 川合市長は独裁者だとの声高まる

ともかく川合市長なる者が川越市の最高責任者である限り、市民の受難を他人事とし独善的志向に埋没し、広い視野に立ち市民の幸福感を満たす首長としての責務を放棄して恥じない人物である。市長という名利に満悦し他の意見に耳を貸さぬ独裁的人物だとの評価が、市長就任1年を過ぎた頃より立ち始め、現在は独裁者の地位に安座しているとの評が広がっている。

秀でた或いは凡たる市長であっても市政に取り組む以上、己の責任範囲の地区に災害が派生すれば何を置いても必死の力で、自ら先頭に立ち被害の救済に全力を傾けるであろう。

川合市長の姿勢に必死を見ただろうか…見なかった…。

ことに寺尾地区の被災者には、川合市長の非情で不遜な姿勢しか目に映らなかった。川合市長の非情な言動に被災者は、胸抉られる怒りと悲しみの人災を背負って歩むのだ。

市議の誰が、真剣に市民の声・被災者の声を代弁しているのか。そして、それを振り返ることなく市議の誰が川合市長や中野県議の側にいるかを厳しく選別することが、川越市の発展に大いに役立つのだ。

かつては議会の混乱・流会を防ぎ、議会と執行部との調整を計り、川合市長の独走的発言には謝罪を求め議会の紛糾を抑え、目に見えぬところでの努力は高く評価された市議の重鎮・新井喜一市議（やまぶき会）も、川合市長の台風被害に対する独善的姿勢に堪忍袋の緒が切れた。

川合市長の反市民的で身勝手な姿勢に対する怒りが、抑えきれなくなったのだ。との声が巷に流れている。川合ベッタリの自民党市議団も党の大義を失わず、市議たる目的は市民の安寧に尽くすことに目を逸らすことなきよう強く自省を求めるのだ。

平成29年11月29日の「川越市議会第9回定例会市政報告」に対しての質疑の模様を改めてお届けした。紙面長きに亘り、続く一般質問の寺尾地区に向けた「質疑・答弁」は、次回に譲ることとした。

今年は内閣を司る安倍首相と加計・籠池に関する「忖度」が流行語大賞となった暗い世相であった。せめて来年は良き年であることを願って止まない。